

「テレビでインターネット」の新星 WebTVがアメリカで デビュー!!

緊急新製品情報

最近になって家電各社が相次いで発表、発売しつつあるインターネット対応テレビ。まだまだ出始めの商品だが、アメリカでは、すでにそれを超えようかという「WebTV」が発売されてしまった。締切直前、幸運にも実物の製品に触れる機会を得た本誌編集部が、その最新インターネット端末であるWebTVの緊急レポートをお届けしよう。

すでに全家庭に行き渡った、成熟した家電製品、家庭用テレビ。その新たな需要を喚起するべく、家電各社はワイド化の次の戦略として、テレビにインターネット機能を付け始めた。この10月に幕張メッセで開催されたエレクトロニクスショー'96での各社のブースを見ても、この商品にける意気込みが伝わってくる。

しかし、そのスペックを見ると、まだまだ不満の残るものばかり。すべての商品がこうだとはわかないが、14.4Kbpsのモデムに、特に文字の読みづらい画面クオリティー、バージョンアップもままならないソフトウェア、面倒な接続設定……。PCでのインターネットをスペックダウンして搭載したようなものばかりというのが現状だ。

ところが、すでにこれらの不満をすべて解消、PCでインターネットを利用すると遜色のないハードとサービスが、アメリカでデビューした。

わずか10分でインターネットに接続 徹底したイージーオペレーション

この9月末にSONYから349ドル、Philips Magnavoxからは329.95ドルという低価格で発売されたそのハードは、WebTV Networks社が開発した「WebTV set-top box(以下WebTV)」で、店頭での実売価格は300ドル程度だという(WebTV Network online serviceに支払う利用料金は19.95ドル/月で時間制限はなし)。価格からもわかるかと思うが、WebTVはいわゆるインターネット対応(一体型)テレビではなく、「set-top box」の名のとおり、テレビに接続してインターネットを利用するユニットだ。

ショップでWebTVを購入し、自宅に帰って箱を開ける。すると、10分後にはウェブサーバーはもちろん、E-mailさえ可能となる。ユーザーはWebTVを箱から出し、電話線とビデオケーブルをつなぐだけという簡単さ。不思議に思われるかもしれないが、WebTVでは個別のプロバイダーへの入会手続きや、モデムやダイヤルアップ、メールアドレスなどの設定が一切不要だ。さらに、以降のすべての操作もリモコンのボタン操作だけで可能なのだ。WebTVの最大の魅力が、このイージーさにある。

リモコンのボタンをオンにする。WebTVにはアメリカの主要なプロバイダーのアクセス番号、約800件が登録されており、自動的にユーザーの在住している地域に一番近いアクセスポイントをコールしてくれる。その回線が混んでいる場合には、これも自動的に次のポイントにかけ直してくれるので、「相手がビジーで接続できない」ということはないという。

インターネットに接続されると、まずWebTVのホームページにアクセスする。ここで驚かされたのが、画面の美しさ、シャープさだ。テレビがPC用モニターに比べて大きく劣るのが画質、特に文字表示なのだが、WebTVに限っては、この常識は当てはまらない。テレビはハードウェアの構造上、にじみやフリッカー(チラつき)がついてまわる。ところがWebTVでは、独自の技術によるソフトウェアでそれらを克服し、PC用モニターの画面のようにシャープに見せることに成功している。

もっと素晴らしいのは、PC用のインターネットのページを、テレビで見やすいように自動的に整理、レイアウトしてくれる機能だ。この機能により、PC用モニター上では横ス

クロールしなければ見られなかったテキストやグラフィックも、すべて一画面で見られるようになってきている。もちろん、キャッシュ機能もあり、ボタン1つでページやURLのセーブ、再アクセスが可能となっている。

常に最新のインターネット環境に 進化していくWebTV

搭載されているブラウザーは、Netscape Navigator 3.0、Internet Explorer 3.0互換のもので、プラグイン関係ではReal Audio、Shockwaveを、さらにMIDI、MPEG2の再生機能まで装備している。

ここで気になるのが、ソフトのアップデートへの対応だ。現在のインターネット対応テレビでは、まずこの変化についていくことはできない。進化の激しいPC、特にインターネットの世界では、これは致命的な問題だ。

ではWebTVはどうかというと、状況はまったく逆になる。WebTVのホームページにアクセスすると、自動的にホスト側がユーザー側のバージョンをチェックし、古いものをアップデートしてくれるのだ。もちろん、このときにユーザーが何か操作するということはない。ただ普通にアクセスしていれば、いつでも最新のインターネット環境が手に入っているというわけだ。これは、現在のPCによるインターネット環境よりも進んでいると言えるだろう。

ファミリーユースを追求した カスタマイズ・コンビニエンス機能

E-mailに話を移そう。WebTVには最初か



I n t e r n e t w i t h T V

ら5ユーザー分のメールアドレスが付属している。これはつまり、1家族分と考えられる。書斎ではなく、リビングルームで家族全員が利用するテレビというプラットフォームならではのうれしい配慮だ。

E-mailを書くときには、リモコン操作のオンスクリーンキーボードを使用することになる。さすがに長い文章を入力するとなるとオンスクリーンキーボードではつらい。本体背面にはPC / AT互換のキーボード用のインターフェイスが用意されているが、現実には、オプションの赤外線キーボード(約60ドル)を購入することになるだろう。

5ユーザー分のメールアドレスが付属していると前述した。ということはつまり、アドレス帳やメールボックスも5ユーザー分あり、個々にカスタマイズできるということだ。これはメール関係だけでなく、ブックマークやネットディレクトリー、画面設定など全般に及ぶ。それぞれのユーザーの設定はパスワードで保護されるわけだ。

ここで注目したいのは、Kid's Protection機能だ。ポルノや暴力などに関連するサイトへのアクセスを制限したり、見知らぬ人物からのメールをチェックしたりする機能で、親がパスワードとともに設定することができる。子供のプロテクションに厳しいアメリカでは、必須のものなのだろう。

また、こんな機能もある。インターネットにアクセス中に電話がかかってきて、接続が切れる……。コールウェイティング機能(キヤッチホン)を使っていると、よく起こる「事故」だ。1回線しか引いてない場合は、避けられないことである。

しかし、WebTVではそれすら克服してしまった。WebTVでアクセス中に電話がかかってくると、まず画面にその旨が表示される。ここでユーザーが電話に出た場合、WebTV側のアクセスはポーズされ、電話終了後、何もなかったようにインターネットに戻るのだ。再ダイヤルすることなく。これこそ、多くの



① 家庭用テレビに映し出したWebTVのホームページ。画面上の文字がシャープで、ハッキリと読みとれるのがおわかりになるだろう。



② SONYのWebTV「INT-W100」は、コンパクトでシンブルなデザインのボディーだ(赤外線キーボードはオプション)



③ 「このリモコンだけですべて操作できます」と、自身でデモを行うポールマン社長。



④ 前面には、このようにスマートカードスロットが装備されている。WebTV自体は、ノートパソコン程度の大きさだ。

インターネットユーザーが望んでいた機能ではないだろうか。

さらにWebTVは、スマートカードスロットを備えている。これにより将来的には、有料コンテンツやオンラインショッピング、ホームバンキングまで利用できる可能性を持っているわけだ。事実、WebTV社は、すでに大手のカードリーダーメーカーと交渉中だという。

'97年初夏、WebTVは日本に上陸する!?

こうして見てみると、WebTVは、決して試験的なものではなく、むしろ将来を見通して完成されたハード、という印象を受ける。

現在はアメリカのみの発売、サービスとなっているが、WebTV社社長のスティーブ・ポールマン氏によると、「現在、日本でのパートナー(プロバイダー、生産メーカー)を探している最中だが、この年末までには日本でのモニターテストを開始できるだろう」

ということだ。

気になる日本での発売、サービス開始時期についても、「来年の第2四半期、ボーナス商戦に投入したい」

と言う。

20万、30万円のインターネット対応テレビが業界で注目されている日本に、すでにその時代を飛び越えた非PCインターネット端末の本命が、来年、日本に上陸する。

⑤ 右から、スティーブ・ポールマン社長、フィル・ゴールドマン上級副社長、ブレース・リーク副社長。AppleにおいてMacintoshのマルメディアやオペレーティングシステムの開発などを手がけた後、General MagicでMagic Capの開発などを経て、1995年4月、WebTV Networksを設立。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp